

短期集中連載最終回

家田莊子「新バブル時代の性愛レポート」

高級交際
クラブ嬢

セレブ弁護士への援助でスツチーになる私

半年前までスツチーだった女性と、来春からスツチーになる女性。高級交際クラブ嬢となったことで『贅沢』を手に入れた彼女たちの生活とは――。

元CA 香織(30)
1000万円以上の
ロレックスをはめるカレ

「初めてカレに会った時、こんなステキな人がいるんだと、びっくりしました。私、どうせ髪の毛がなくて、お腹が出て、不潔っぽい人が来ると思ってたから。ロマンスグレーで、(雰囲気か)石原裕次郎みたい」

半年前、8年間の国際線キャビンアテンダント(CA)生活にピリオドを打った香織(30)は、涼しい目を細めて笑った。東京の私立女子大英文科を卒業した香織は、日本の航空会社に就職した。年収は100万円。憧れの職業に就いた香織だったが、どうして交際クラブ嬢になったのだろうか。

「大好きな仕事でしたが、歳と共に体力的にきつくなって。友達のCAから、クラブのことを聞いた時は、体を売っておカネをもらいうような印象を持ったから、2回断ったんだけど、オナーの話聞いて……」

納得の上、香織は、『銀座ワンアンドオンリー交際倶楽部』(東京・中央区)に入会した。このクラブは、女性から一切おカネを取らないが、男性は入会金100万円。その他に、紹介料が女性のレベルに応じてかかる。約100名の男性会員は、理想の女性を紹介されるが、3000人以上いる女性会員で選ばれるのは、1割にも満たない。

7カ月前、香織は地方病院の理事長であるセンセイを紹介された。3人いる子供のうち、二人が医師で、妻もいる50代後半のカレは、月2回、香織に会うために上京してくる。出逢って2カ月後、体調を崩した香織は、「君のことは真剣だから、無理して仕事を続けなくてもいいんだよ」と、カレに言われ、すでに

▲地方病院の理事長を務めている香織のカレは、学会などの機会を利用して、よく上京してきているという



毎月50万円が彼女の口座に振り込まれていたこともあり、退職を決意した。二人が結ばれたのは、退職から1カ月後、2泊3日の沖縄旅行に行った時だった。二人は、一泊10万円の高級ホテルに泊まった。

「ソファに坐って、お話をしたら沈黙ができて、キスから始まりました。カレがワンピースを脱がして、私だけ裸にしているから、全身くまなくキスを。柔らかくてスベスベで、気持ちいい肌だね」とか「すごくきれいな胸だよ」とか言われて、3回イッちゃいました。その後は、お姫様だっこでベッドへ。私、重いから恥ずかしくて……」

「曰く、テニスとゴルフで体を鍛えているというセンセイは、お姫様だっこも、エッチ

も歳をまったく感じさせなかった。「よかったですよ。2時間くらいかけて、すごく満たされて。カレを知ってから、会えない間、すごく欲求不満になるんです」

香織は、甘えた声で言っ、目の周りをピンクに染めた。

「カレ、大きいお尻が好きみたいで、『お尻見せて』って言うんです。裸で私を立たせて、『もう、やだ。やめて』って言うのに眺めたり、触ったり。それからいつも全身をくまなく……。私、そういうことされたことなかったから衝撃的」

メールの打ち方を習得したセンセイは、心の絵文字入りで「早く会いたいね」「今日は何してたの?」などと、メールを送ってくる。

▲7人の女性たちに話を聞いた一連の取材を通して、「羨ましさ」と「はかなさ」を感じたという家田氏

「帰る時、新幹線ホームで私の手を握って、『ほんと、まだいたいけど』って、淋しそうに言うんです。本当にかわいくて」

東京してくる時は、いつも財布に100万円の現金を入れ、医師らしい凛とした表情で、新幹線ホームに降り立つ。それから、

「季節の変わり目だから、お洋服を買ってあげようと思うけど、どこが好き?」

と、二人は銀座に向かったりする。

「大好きな『フォクシー』のカーディガンやスカートを買ってもらったり、『マックスマラー』のお洋服や、『ファーム』10万円くらい使っちゃう。カレは現金で払って、『店員には』『レシートは捨てて下さい』って言うてる。

買い物をしていない時は、皇居周辺を散歩したり、銀座でウインドウショッピングしたりして過ごす。オシャレな先生は、地方にいる時も「凄く似合いそうな服があったから」と、ブラダの洋服や雑誌で見つけた服を送ってくる。アルマーニの服しか着ず、10000万円以上のロレックスの時計をさりげなくする超セレブな先生だが、たまに香織のマンションに来ると、手製のエビチリや、肉じゃがを「美味い」と、喜んで食べる。そのマンションだが、香織は5カ月前、1Kで家賃10万円弱の所から、港区にある1LDK25万円の部屋へ引っ越しをした。家賃はカレ持ちで、家具は「カッシーナ」で揃えたそうだ。

「ワインセラーを買ったんです。カレと外で一緒に飲んだワインと同じ物を買って入れておくの。こっそり溜めて、いつか、ワイン好きのカレを驚かそうと思って……」

と、香織は、肩までの髪を耳にかける。相当、カレに夢中なようだった。

「カレは『自分が死んだら、他の人と結婚したほうがいいよ。貯金もしておいてね』って言うけど、カレを越える人なんていない。カレとは結婚できないと、頭ではわかってるけど……。なんか悲しくなってきた」

香織は、耳に手をやりながら、せつない声を漏らした。超セレブなカレにとって、香織と過ごす時間は、お小遣いの範囲内で遊べる「不倫」という別世界。ところが香織にとって、生活だけでなく、心まで変えられてしまうほど、カレは絶対的な存在になっているのだ。長年の仕事疲れを癒すために、のんびり

と毎日を送っている香織は、将来、何か事業を始めるつもりでいる。目と恋心を募らせる香織は、セレブ生活と引き換えの淋しい夜に耐えていけるだろうか。

現役学生 涼子(21)
スッチー就職内定祝い「帯封の付いた100万円」

「ずっと、CAになるのが夢だったんです。でもCAの受験は、半年以上もあって長丁場。英会話やマナー教室のレッスン料が心配だったから、クラブに入りたいなあと、素直に思いました」

東京の私立大4年の涼子(21)は、身長160cm、白い清楚なワンピースが、とても似合う上品な女性だった。国内外の航空会社5社から、CAとして内定をもらったばかりの涼子は、今年2月、CMタレントをしている友人に勧められて、この交際クラブに入会した。2週間後、身長160cm、50代後半、妻とは別居している子供も独立し、一人暮らしという弁護士を紹介された。

「1時間、お茶を飲んだだけで『これ、車代ね』って、別れ際、ポチ袋をいただいた。『ええッ? 5万円?』って、びっくり。1週間後のデートは、夕食を銀座でして、家の近くまで送ってもらったのに、また『車代ね』って10万円。『えええッ?』と思ったけど、英会話のレッスンに使いました」

涼子は、都内の実家に住んでいるので、生活費はかからない。しかしCAになるため、週3〜4回、英会話の個人レッスンとマナー教室にそれぞれ月5万〜6万円もかけていた。家庭教師や塾講師のバイトでは、月7万〜10万円にしかならなかった。

「CAを目指してる。ってカレに話したら、『すばらしい夢だね。応援するから』って言うてくれて。カレは英会話がすごいので、今日は、全部英語ねって、英会話でデートすることもあるんだけど、私は全然、追いつかなくて……」

涼子は、大きな目を細めた。色白で鼻が高く、知性を感じさせる美人だ。

「それで結ばれたのは?」

私が尋ねると、

「実はまだ……」



涼子は、こめかみに長い指先をあてて俯いた。月3〜4回のデートを半年間も続けていたのに、まだカレは手を出してこない。「出逢ってから2カ月後、そうなりかけたことはあったんです。私が病み上がりで、デート中に気分が悪くなっちゃった時、タクシーでお台場のホテルへ行って、『シャワーを浴びておいでよ』って言われたから、（もしかしたら）と思ったんですけど、アロママッサージをしてくれただけ」

「ツサージを始めたのだ。『寝ちゃいそうになるくらい気持ちよかったです。2時間くらいして終わったら、熱いおしほりで全身を拭いてくれて……』アロママッサージを着た涼子は、カレに腕枕をしてもらった。それから3時間、カレの昔話や、CAへの夢を語り合う二人の手は、しっかりと握り合ったままだった。『なんか拍子抜けでした。その時に、就職試験に受かるまで、努力しなくちゃいけない。結ばれるのは、CAになってから』と、カレに言われたんです。感激して、『はい』とか『うん』という言葉しか出てこなかった。本当にうれしかったあ」

涼子は、きれいな歯を見せてから、美しいツサージを始めたのだ。『寝ちゃいそうになるくらい気持ちよかったです。2時間くらいして終わったら、熱いおしほりで全身を拭いてくれて……』アロママッサージを着た涼子は、カレに腕枕をしてもらった。それから3時間、カレの昔話や、CAへの夢を語り合う二人の手は、しっかりと握り合ったままだった。『なんか拍子抜けでした。その時に、就職試験に受かるまで、努力しなくちゃいけない。結ばれるのは、CAになってから』と、カレに言われたんです。感激して、『はい』とか『うん』という言葉しか出てこなかった。本当にうれしかったあ」

髪を両手で両耳にかけた。その後も食事をしたり、散歩をしたりとデートが続いている。『ウィトンのウインドウでモノグラムのバッグを見つけた時に、『あ、かわいい！』って言ったから、『じゃあ、買ってあげるよ』って。いつか買ってくれよとすると、実家だから目立つ物はダメ。もう行こうって、歩き始めます。涼子の口座には、10万円近い金額が毎月振り込まれている。『もっと習いごとしたい。今は着付け教室にも通ってるけど、今後はジム。それとカレがピアノを弾けるので、ピアノも。あと一回3万円のエステに、週1〜2回通ったり、美容院代に1カ月5万円くらいかけた……』

曰ごと、輝いて行く涼子に、カレは絵文字つきのメールを送ってくる。私は、涼子にメールを見せてほしいと頼んでみた。涼子は、高い声で笑って、恥ずかしそうな顔をしながら、メールを見せてくれた。『愛しい涼子ちゃん。真っ白な歯を見せながら笑っているのを見るのが大好きです。(中略)いつまでも僕の天使でいて下さい』カレの優しさが伝わってきた。そして、涼子の表情から、彼女がどんなにカレのことを好きかも……。

「さつき(弁護士)事務所へ寄ってほしいと、カレから電話があつて、『CA就職内定のお祝い』って、ご祝儀をいただいたんです。この間、『フライデー』の取材を受ける時、プレゼントされたものを見せてって言われると思うけど、私は何もなしって、カレに話しちゃったから、きつと気を遣って……」

涼子に祝儀袋を開けてもらって、銀行の封にくらされた10万円が現れた。涼子の夢を叶えるため、カレは、精神的にも金銭的にも一生懸命応援しているのだ。『ちよっと重たい……』

はしゃぐように笑う涼子こそ、連載に登場した交際クラブ嫌の中で、もっとも理想の愛され方をしていないのかと、私は思った。これまで彼女たちから話を聞くと、羨ましさとはかなさを感ずる。しかし、涼子のカレは、ブランド品など贅沢品では夢が満たされきれない女心を、よく知っている。『私が飛行機に初めて乗る時、カレも乗って言うんです。『新人だからエコノミー』と云うと、『君の顔が見られるなら、エコノミーでいい』って。ああ、幸せだなあ』って感じます。』

この交際クラブで成立したカップルが、のちに破局する割合は60%以上と、オーナーは話す。これまでに結婚したカップルは5組いるものの、二人の関係がうまく行く確率は低い。なんでも手に入ってしまう超セリフな男が、彼女に飽きるのか、お力なく引き換えの淋しい生活に、女性が耐えられなくなるのか……。贅沢クセのついた彼女たちのその後は、どうなるのだろうか。私はいつのまにか、90年代に、バブル親父の恩恵にあやかり、やがて時代に捨てられたバブル女性たちに、彼女たちを重ねていた。

了

▲涼子は「こんなに立派なご祝儀袋、もらったことがない」と笑いながら言い、開けるまでに手間取った

PHOTO 高木 愛 松井映里砂

協力/「銀座ワンアンドオンリー交際倶楽部」 <http://www.87287.com/ably/index.html>